

10月4日、2017年度グッドデザイン賞受賞作品が発表になり、本学、人工知能・ソフトウェア技術研究センターの「ハナノナ」が受賞しました。

人工知能が持つ可能性を感じるとともに、それが完璧でない点や、予想外の結果を導く様子を手軽に観察でき、ブラックボックスになりがちな人工知能に対する理解を「花を分類する」という分かりやすいモチーフで導いている点が優れており、子供から大人まで幅広い層に受け入れられるデザインとなっていること。また、円形のディスプレイやテーブル、対象物を照らすスポットライトのような演出など、効果的な会場構成が評価され、今回の受賞となりました。

体験型インスタレーション及びウェブサイト【ハナノナ】

事業主体名 人工知能・ソフトウェア技術研究センター

プロデューサー 人工知能・ソフトウェア技術研究センター 副所長 竹内彰一

設置場所 東京ソラマチ 8F 千葉工業大学 東京スカイツリータウン®キャンパス

概要 「ハナノナ」は人工知能が大量の花の写真を深層学習することによって得た花の分類能力を可視化する体験型作品です。中央のテーブルに置かれた写真、絵画、絵本など抽象度の異なる花を描いた本を撮影すると、人工知能が花の種類を判定しどの花と近いと判断したのか、正面の丸いディスプレイの中の「花マップ」上に視覚的に表示します。また「ハナノナ-webバージョン」は、スマートフォン、タブレット、PCなどからも利用できます。会場の周囲の展示台の中にある花のようなオブジェや有名な花の絵画、またスマートフォンなどの場合はお手持ちの花の写真や実際に屋外で花を撮影したりして、正しく分類できるか試してみることができます。

<http://www.g-mark.org/award/describe/45885>

